

特252

469

昭和十二年七月

鶏の飼ひ方

長崎縣養鶏組合聯合會



始



特 252
469



昭和十二年七月

凡 例

農村の更生と農業經營に家畜家禽を適當に配し相互の有機的結合を圖ることが頗る重要なるは今更贅言を要せざる所である。

依つて本編は養鶏經營中最も關心を持たれつゝある飼養管理の方面につき農業講習會の講義を補足し其の大要を具し参考に供せむが爲編纂せるものなり。



長崎縣養鶏組合聯合會



目次

飼料と栄養

- 一、栄養率と栄養標準 一
- イ、栄養率 三
- ロ、栄養標準 三
 - 1、ホイラー氏の標準 三
 - 2、鈴木博士の標準 四
- 二、飼料の組成と其の性質 六
- 三、各種飼料の特長 七
- 四、飼料の配合 二一
 - イ、飼料配合の要領 二一
 - ロ、産卵を基準とした簡易配合方法 二三
 - ハ、飼料の変更 二六
- 五、各種飼料の卵肉に及ぼす影響 二七
- 六、飼料の調理と給與 二七
 - イ、飼料の調理 二七
 - ロ、飼料の給與方法 二九

ハ、飼料の給與量 二〇

管理の心得 二一

一、一般管理 二二

イ、時期に依る管理 二三

ロ、鶏舎の消毒及敷薬の處分 二四

ハ、外寄生虫の驅除 二五

二、淘汰と更新 二六

三、換羽に就て 二九

四、點燈飼育 三〇

イ、點燈の方法 三一

ロ、點燈時間 三二

ハ、點燈開始及消燈方法 三三

ニ、照明の程度 三三

ホ、點燈光の位置 三三

ヘ、點燈と換羽 三三

ト、點燈の効力 三三

備 三三

一、鶏舎の敷地 三三

二、鶏舎の設備上注意すべき事柄 三三

三、鶏舎 三四

四、運動場 三四

五、舎内設備 三五

疾 病 三七

感冒、鼻加答兒 三七

ル ー プ 三七

チフテリ 三六

氣管加答兒 三六

鶏 痘 三六

コクシジウム 三六

白 痢 三六

下 痢 三六

卵 泌 症 三六

輸卵管炎 三六

趾 瘤 病 三六

條虫、蛔虫 三六

白 癬 症 三六

疥癬症	四二
羽虱	四三
糞虫	四三
鶏コレラ	四三
鶏チブス	四四
鶏ベスト	四四
附 録	四五
一、養鶏飼料の組成分及可消化養分表	四六
二、各種飼料の一升重量及百匁の容量	四六
三、甘藷の加工方法	四七

1 飼料と栄養

飼料と栄養は鶏を飼ふ者にとつて一番悩まされる問題である。此の取扱ひに一步を誤ると鶏の健康又は卵の生産に密接重大な関係がある許りで無く、流通資本中大部分を占める飼料代にも影響するから養鶏家は常々細心の注意が必要である。

總て動物と云ふものは其の日常生活を営むのに呼吸作用、運動、體温の發散、其の他の刺激等に依つて何時も體質の損耗を來すもので、之等の損耗を補ふ爲に絶えず外部から餌によつて栄養分を與へる必要がある。殊に成長中の雛、産卵中の雌鶏又は肥育中の鶏等では其の體質の損耗を補ふ外に多量の栄養分を與へなくてはならぬ。

一體鶏體は何んな具合に組織されてゐるか云ふと

水分	七二・二%	脂肪	四・六%
蛋白質	二二・〇	灰分	一・二

であつて之は勿論鶏の年齢、種類及飼養方法の如何に依つて違ふけれども是等の養分は全部飼料から得られるのである。然し飼料中の養分は其の儘直に鶏の養分とはならず、鶏の體内で色々に變り其の一部分が吸収されるのであるから餌としては一層多くの養分を與へなくてはならぬ譯である。所で右は只鶏の體を保つだけであるから、産卵中の鶏には自分の體を保つ外に卵を産むに必要な養分を飼料から得なければならぬ。

卵の組成を調べて見ると

卵殼	一一・五%	卵白	五八・五%
卵黃	三〇・〇		

で卵殻の大部分は炭酸石灰であるが此の外に炭酸苦土、燐酸石灰、燐酸苦土及若干の有機分を含んでゐる。
鶏卵の分析結果は

區別	卵殻	水分	蛋白質	脂肪	灰分
鶏卵(卵殻のまゝ)	11.3%	55.0%	11.9%	9.3%	0.9%
鶏卵(卵殻を除く)	—	77.7	13.4	10.5	1.0
卵白	—	86.3	13.3	0.3	0.6
卵黄	—	59.5	15.7	33.3	1.1

である。だから理窟から云ふと飼料は、成鶏ならば自分の體を保つ養分と、卵を産むに必要な養分を與へれば良く、雛ならば完全な發育をするに必要な養分を與へれば良いことになるのである。

乍然實際問題としては鶏を飼ふことに依つて出来るだけ多くの利益を得るのが目的であるから、如何に鶏の爲に立派な餌であつても其れが經濟的に引合はない様なものであつたならば利用することが出来ない。だからこそ飼料問題が一番重要且困難な問題となつて来るのであつて、飼料給與には常に一定の目標を定めて實行し、之を使用した結果如何に就ては充分鋭敏な觀察をして、上手に使ひ分けをしなければならぬ。

一、**營養率と營養標準**

餌を與へる時前述の事柄を土臺として其の根本原理を知る事は非常に必要な事ではあるが、其の方法が餘りにも難かし

く而も理論的であつて實際問題として應用方面の具體的な事柄に觸れて居らぬ爲利用され難い場合が多い。茲では單に參考までに述べる事とする。

(イ) **營養率**

養分比又は營養比とも呼ばれてゐる。餌の中にある蛋白質量に對する脂肪及炭水化物の量との比を指すものである。脂肪と炭水化物とはお互に有無相通する事が出来るけれども其のものが蛋白質の代用をすることは出来ぬのであつて、一定量の蛋白質は動物が生命を保つ上に絶對的必要なものである。此の蛋白質の量を一として之に對する脂肪、炭水化物の割合を示すことが即ち營養率である。之を示すのに一に對し三、又は一に對し四―五等の數字を使用し其の比率の大小に依つて營養率が廣い、狭い、中庸である等と言ふ。

普通産卵鶏に對しては一に對し四位が適當であると云はれてゐる。

營養率算出の公式

$$\frac{\text{可消化炭水化物} + \text{可消化脂肪} \times 2.25}{\text{可消化蛋白質}} = \text{營養率}$$

營養率は各栄養素の比率を示すのであるから只漠然と計算して求めたのでは何の意味も無く、必ず鶏の状態に必要な蛋白質量を考慮に入れなくてはならないと云はれて居る。

(ロ) **營養標準**

飼養標準とも言はれ鶏を飼ふ時、飼料配合をする時のメヤスとして使用されるのである。

一、**ホイラー氏標準** (生體重一二貫に對する一日量を示し單位は匁)

其の他炭水化合物及脂肪に就ては熱量同様特別に考慮する必要はないが、炭水化合物の消化にはビタミンBの存在が必要で、ビタミンBの含有量の少ないものを與へる時には特にビタミンBの給與に留意し、脂肪はビタミンAの存在で有効のものであるから此の點にも注意せねばならない。

無機分は相當重要なものであるが従來は稍輕視された憾がある。

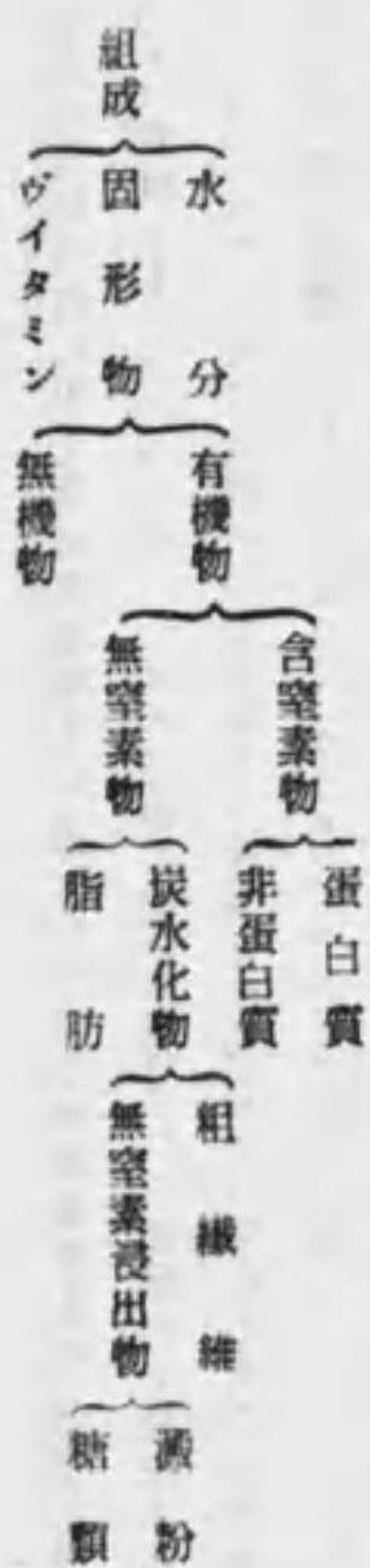
普通飼料として使用する穀類中には割合に含有量が少いから補給に注意せねばならぬ。

尚鶏の状態により時々飼料の配合を變更して鶏の嗜好に適する様にせねばならぬが成鶏、中雌、幼雌等の目標を示すと左の通りである。

- 成 鶏 飼料中に二二—二三瓦の粗蛋白質を含めること
 - 中 雌 同 一五瓦以下の粗蛋白質を含めること
 - 幼 雌 同 一八—二〇瓦の粗蛋白質を含めること
- 右の外ビタミンA、Dの補給、鶏の嗜好を考慮、飼料の品質を吟味することが必要である。

二、飼料の組成と其の性質

鶏の餌としては植物質飼料、動物質飼料、礦物質飼料、の三ツであるが此の中最も多く利用されるものは植物質飼料である。植物質飼料は其の種類に依つて組成が大變速ふけれども一般的な組成を示すと



飼料中に固形物が多く含まれる程栄養分を多く含む事となり従而値段も高くなるわけである。

鶏に與へた餌中の養分は其の儘全部が利用されるものではなく、一部は消化吸収の爲消耗せられ一部が消化吸収されて鶏の體中に貯へられ、残りの部分是不消化の儘糞として體外に排泄せられるのである。

水分 鶏體及卵の組成を見ると大部分は水である點から考へても非常に大切なものである。飼料中にも水分は含まれるが之だけでは到底不足であるから飲水として新鮮なものを充分與へなくてはならぬ。

蛋白質 蛋白質の性質に伴つて筋肉、血液、内臟諸器管又は羽毛、卵等になり一番大切な栄養分である。故に常に適當量と與へる様に工夫しなくてはならぬが、給與量が少い場合は勿論多過ぎても亦鶏體に故障が起るものである。

炭水化合物 植物質飼料の大部分を占め澱粉、糖類及粗纖維からなり、消化吸収されて温熱の源泉、又は脂肪となつて體内に蓄積される。纖維は消化困難で栄養的效果はないが、飼料に適當のカサを與へ、機械的に消化を促し又腸の蠕動を助ける等物理的效果がある。

脂肪 炭水化合物と同様體温及脂肪の資源となる。炭素に富む故炭水化合物に比較して二・二五倍位の栄養價値がある。無機分 主に加里、曹達、石灰、苦土、鐵、磷酸、硫酸及鹽素等よりなる。

普通の飼料中にも含まれて居るが量が少いから特に補給せねばならぬ。

三、各種飼料の特失

鶏の飼料としては種々のものを利用するが之等は何れも一長、一短があつて漠然と配合してゐたのでは駄目である。依つて各飼料の特失を研究して上手に利用することに心掛けなくては立派な成績を擧げる事は出来ない。

植物質飼料

- 玉蜀黍** ●ビタミンBを豊富に含む。其の他は他の穀類と同様。黄色玉蜀黍はビタミンA、Dを多量に含み、黄色色素は卵黄着色に特効がある。
- ▲蛋白質の含量少く、栄養価も低い。無機分少く特に石灰量が少い。
- ▲ビタミンBを多量に含み、蛋白質の含量も多く且栄養価が高い。鶏の嗜好にも適する。
- ▲ビタミンA、Dの含量少く、無機分含量も少い。特に石灰、鹽素の量が少い。
- 粒餌として鶏の嗜好に適する、幾分劣るけれど小麥に準じて考へれば良い。
- 小麥** ●ビタミンBの含量多く、蛋白質含量は小麥よりは少いが栄養価は充分である。
- ▲無機分含量少く特に石灰、鹽素の量が少い。小麥に比し鶏の嗜好劣る。
- ビタミンBを多量に含む。蛋白質の量、栄養価は小麥と略同様。
- ▲無機分少く特に石灰が少い。ビタミンA、Dも少い。
- 青米、屑米、玄米、玄小米、白小米等が飼料として使用される。
- ▲白米小米に比し、玄小米の方が蛋白質も多く、ビタミンBも多い。
- ▲無機分が少い。
- ビタミンB豊富、Aも相當ある。(但し綠餌等とは比較にならぬ)
- ▲蛋白質の量少く、栄養価も低い。無機分中石灰の量少い。
- ビタミンBが多い。糯粟の蛋白質は栄養価高く、植物性蛋白中優秀なものである。
- ▲ビタミンA、Dの量少く、無機分中特に石灰が少い。
- 飼料として利用されるが一升の重量一五〇匁以下では効果が殆んどない。
- 粟**
- 高粱**
- 米**
- 燕麥**

- 米 糠** ●蛋白質含量多く、栄養価は高い。ビタミンB豊富。無機分含量も多い。
- ▲ビタミンA、D少く、酸酵し易い。多量の搗粉を含むことがある。最近脱脂したものが有り頗る良好であるけれど共割高である。
- ビタミンB豊富。蛋白質多く、栄養価も高い。無機分も含量が多い。
- ▲ビタミンA、D少く、無機分中石灰が不足する。市販中には不良品が多い。
- 粗糠と仕上糠の二種がある。粗糠は養分が少いが仕上糠は相當良い。
- ▲搗粉の多いもの、酸酵せるものは不可。
- 各種ビタミンを含む。蛋白質含量多く、栄養価も高い。
- ▲無機分中石灰が少い。搗粉の多いものは不良。
- ビタミンB豊富。蛋白質の含量多く(四〇—五〇%)、栄養価は植物性蛋白としては優秀なものである。
- ▲ビタミンA、Dが少い。無機分は相當含まれるが石灰、鹽素、曹達が少い。
- ビタミンB豊富。蛋白質多く(四五%)、植物性蛋白中最も栄養価高く肉蛋白と大差が無い。
- ▲ビタミンA、Dが殆んど無い。無機分は大豆粕と似る。
- 製造原料に依つて異なるが比較的蛋白質に富み、且つ酵素を含むから相當効果がある。
- ▲酸酵し易く、無機分が少い。
- 大豆粕**
- 落花生粕**
- 鮎 粕**
- 海藻類**
- 養鶏飼料として使用する試験研究は發表されて居らぬが家畜には使用して或る程度の効果を納めてゐるのであるから本縣の様な海岸に恵まれた處では是等の利用方法を考へることも必要である。
- アラメ、オホバモク、タンバノリ、アマモ、ハリガネ、アナアホサ、オゴノリ、サクラノリ等は家畜に利

用された例がある。

緑 餌 菜類は飼料として出来るだけ多く給與せねばならぬ。其の分量如何は生産物の品質、鶏の保健に大きな影響を及ぼすものである。給與分量が少いと卵黄色も悪く消化機能も衰へる。

動物質飼料

魚 粉 ●蛋白質給源として多量に使用される。製法に依つて又原料に依つて大變差がある。普通三〇—五五%位の蛋白質を含んでおり、栄養價值も高い。無機分も二〇%位を含んでゐる。

生魚屑 ●栄養價割合に高く、安價に得られる。

▲水分が多い、變敗し易い、脂肪が多すぎる、悪臭が卵に移行する。

川魚類 ●中鮎、鱒は育雛用に使用せられ、栄養價值も高い。

▲割高であるのが缺點。

蟹 蛹 飼料として最近利用されてゐるが一五%以上になると悪臭が卵に移行する。

牛乳及乳製品 育雛用に盛んに利用せられる。殊に乳酸酸酵したものは雛の發育を助け白痢の豫防に効果がある様に言はれてゐる。

其の他 肉粉、血粉、昆虫類、蝦、蟹等も利用されてゐる。

礦物質飼料

貝 殻 卵殻の主なる成分は炭酸石灰であるが、此の給源として貝殻を充分與へなくてはならぬ。貝殻中牡蠣殻は最優秀なものである。

骨 粉 磷酸石灰を主成分としてゐるもので無機鹽類の給源として使用する。

食 鹽 無機鹽類の給源として使用するのであるが又一面には飼料に適度の風味をつけるのも目的である。

殊に大豆粕を多量に使用する時は是非食鹽を使用せねばならない。然し餘り多く使用すると下痢を起すものである。

普通使用される分量は成鶏一日一羽當〇・五—一・〇互位のものである。

石 片 栄養的の効果はないが飼料の消化を助ける爲に必要である。

木炭末 栄養的効果は矢張り無いが共腸内の異常酸酵に依る瓦斯其の他を吸収して整腸劑としての効果がある。

右の外強壯劑として唐辛、胡椒、大蒜、葱類、薑等が給與される。

四、飼料の配合

(イ) 飼料配合の要領

飼料の配合は栄養標準を参考にして、鶏の種類、年齢、氣候、飼養の目的、飼料の種類、特性及品質、價格其の他種々の事情に依つて臨機應變の處置を取り且鶏の好む様なものを配合しなくてはならぬが、結局餌を與へて鶏を飼ふ目的は出来るだけ生産物を多くして而も經濟的に有利な事が必要なのであるから其の要領を知らなくてはならない。

飼料の栄養價及市價に注意すること

飼料は鶏が必要な栄養分を與へる爲であるから、其の品質即飼料の含む栄養分を考へて使用する飼料を決定すべきで單に値段だけを考へてゐると却つて不經濟な結果を招くことになるのである。

其處で飼料を決定する時には、其の含有する栄養分と市價とを比較研究せねばならない。

参考までに一定量の蛋白質とカロリーに付て比較して見ると次の通りである。

飼料名	粗蛋白質一〇瓦を含有する量	一〇〇カロリーの熱量を得るに必要な量	飼料名	粗蛋白質一〇瓦を含有する量	一〇〇カロリーの熱量を得るに必要な量
小麦	七・九	三三・二	麥糖	一六・三	五五・〇
玄米	一〇・〇	三五・三	苞米	九・〇	三三・〇
大麦	一〇・〇	三七・五	高粱	一〇・五	四〇・九
小米	一〇・三	三六・六	米糠	九・四	三〇・七
枇	一四・八	四一・七	大豆粉	三三・七	五〇・六
芽	六・三	四四・九	魚粉	一九・〇	三九・一
數	六・五	五二・八			

給與飼料の含有栄養分量は鶏の能力を基礎として考へること

餌は鶏の能力を充分發揮さす爲に與へるのであるから、毎日産む様な鶏も、十日に一箇位しか産まぬ鶏も同様に取扱ふことはよくない。毎日産むものは産む様に、十日に一箇位のは又これに應じた様に餌の配合を考へなくてはならない。飼料は鶏の嗜好を主として配合すること

栄養的に考へて如何に立派であつても、鶏が好んで喰べなければ問題にならない依つて先づ鶏の嗜好を考慮しなくてはならない。

鶏の種類及飼養の目的に依りて配合に手加減を加へること

卵用種か肉用種か？採卵用か肥育か？に依つて自然餌の配合も變へなくてはならぬ。即卵用種ならば卵を産める様に、肉用種ならば出来るだけ肉のつく様な餌が必要である。

鶏の年齢を考慮すること

發育中の雛ならば栄養分を多く必要とするし、若いものは餌を喰べる量が多いけれ共、老鶏になれば攝取量が減する等

の點に注意すること

氣候に依つて手加減すること

梅雨時期とか夏期には餌の攝取量が減するから、少い餌の量でも充分栄養分を含む様に心掛け、春は飽食する點等を考へなくてはならぬ。

飼料の種類配合割合、品質等を急變せぬこと

飼料の種類とか配合の割合又は品質を突然變更して産卵中の鶏が休産する例も時々見受けるのである。此の事は最も注意せねばならない。

飼料の配合は出来るだけ多種類を使用すること

只一色の餌を使用するよりも出来るだけ多くのものを混ぜて與へると非常に成績も舉り、鶏の嗜好も増すものである。

飼料中には少くとも一割位の動物質飼料を入れること

餘り纖維質の多いものを多量に用ひぬこと

貝殻、石片、木炭末等は自由に喰べさすこと

飼料と生産物の品質との間には直接の關係があることに留意すること

サナギや生魚屑を多量に使用すると其の香が卵や肉に移るものである。

(ロ) 産卵を基準とした簡易配合方法

餌の配合は今迄述べた事を参考にして行へば良い譯であるが、實際問題として考へると相當理論的であるから今少し具體的に話すこととする。乍然此の方法も單に一つの目安であつて金科玉條とは言ひ得ないものであることをお断りしておく。

一番手取早い方法は産卵率を目標とすることであるが、之も詳細に考へると鶏一羽一羽に依つて異なるものであつて嚴重

之等の数字を加へると二・一八五となり、之を一〇〇で割ると二・一八五となる。
即ち以上の様な配合をしたものは二・一八五の粗蛋白を含んでゐて、表(其の二)を見ると丁度九割程度の産卵中の鶏に與へてよい飼料であると云ふ事になるわけである。

尙養鶏飼料中には一般に無機分に不足し勝であるから之を補給すると云ふ意味で、次の様なものを全飼料の三、五%位使用すると一層合理的である。

●無機分配表(重量比)

	骨粉	貝殻粉	食鹽	(粗悪なものにて可 一度焼きて用よ)
A	三	三	二	
B	三	三	一	
C	六	二	二	

註 飼料中に魚粉を多量に使用して相當濃分のある場合にはB反對に少い時はA又育雛中の如く發育中ものにはCと云ふ様に夫々の状況に応じて適當に使い分けるのである。

(八) 飼料の変更

飼料の種類とか配合割合等は再参述べた様に鶏の種類、年齢、飼養の目的、氣候其の他の事情に依つて變へなければならぬし、又適當に変更すると却つて鶏の食慾を増し、能力を増進する等の有利な點もあるのである。

乍然此の変更を餘り急に行ふと思はぬ失敗を招く事になるから、飼料の種類或は配合割合又は同一飼料でも古い袋から新らしい袋に移る時には、少く共七、一〇日の期間を費して極めて徐々に行はなければならぬ。

五、各種飼料の卵、肉に及ぼす影響

急に飼料の變つた爲に産卵中の一群がバツタリ減産、甚だしきは休産した様な笑へぬ實例も屢々耳にすることである。卵肉の品質は飼料に依つて著しく影響を蒙るものである。

鶏卵が商品的價値を高め取引に際しても其の外観は勿論、選卵、荷造等に就ても非常にヤカマシク云々される様になつてゐるが、最近では鶏卵の内容までも嚴重な批評を受ける様になつて來たのである。

即ち卵黄の色とか、卵白の色、濃度、風味等に付ては今後一層取引條件が難かしくなつて來るのであるから生産者は此の點特に考へなくてはならぬ。

卵黄色は飼料中の色素「キサントフィル」に依つて着色するのであつて黄色玉蜀黍、粟、綠茶等を充分給與すれば鮮黄色を呈するのである。蝦、蟹等でも着色するが此の場合には稍赤味を帯びる様になる。

其の他卵白の粘稠度、風味、卵殼の質又は産卵數、卵重量等も飼料と密接な關係があるのであるから注意を要する。肉と飼料との關係も卵同様重大な關係がある。元來日本人は黄色脂肪、黄色皮膚を好み、歐洲では白色脂肪、桃色肉を喜ぶが、白色玉蜀黍、蕎麥等は白色脂肪を生じ、黄色玉蜀黍、粟等は黄色脂肪を蓄積する傾向がある。

瘦鶏と肥育鶏とはテンデ肉の風味が違ふ事は誰しも知る所であるが、之等も飼料が如何に肉に影響するかと云ふ一つの證據ともなり得る。

又飼料として粗悪な生魚屑、蠶蛹等を與へた時其の惡臭が卵、肉に移行するのも周知の事實である。

六、飼料の調理と給與

(イ) 飼料の調理

養鶏飼料は其の種類が非常に多く、色々な形をしており之を其の儘で與へるよりも多少の調理、加工をすると内容的

には變りがなくても、味を良くし、嗜好を増し、消化吸収を助ける等の有利な點があるから飼料を上手に利用する爲にも考へなくてはならない。調理方法としては色々あるが普通行はれるものは煮熟、燒炒、粉砕、浸漬、蒸餾、發芽、醱酵等がある。煮熟、燒炒は容積を増し、消化を助け、嗜好に適應せしめる爲に行はれるが實際問題としては餘り役立たない。即ちヤリ様に依つては却つて品質を悪化し、時間、努力、經費等を要するのである。只批等の様な粗硬飼料に魚糞出汁等を加へる時等には幾分嗜好を増す事が出来る位のものである。

粉砕は最近盛に行はれるもので消化も容易となり、餌の選り好みを避け、人工的に栄養分を平均に給與する事が出来、飼料給與に要する努力を節約し得る等優れた點が多いのである。

浸漬は消化を助ける爲に役立つものであつて殊に育雛用粒餌は浸漬して與へるのが普通である。

發芽は穀類を全粒の儘與へる時に利用されるもので、粒餌代用の芽出(モヤシ)粒餌代用の充分發芽して青味を帯びたもの二通りがある。

芽出しは粒餌中の栄養分を消化し易い形に變じ且糖分を増すから鶏の嗜好にも適する許りで無く、一種の酵素を生ずるから他の飼料の消化も助けると云ふ美點がある。

尙右の外飼料を粒餌、粉餌、練餌等として使ひ分けをしてゐるが、粒餌は主として穀類を其の儘又は破碎して與へるので鶏の嗜好に適し、栄養分にも富んでゐるけれ共割合に高價につくのが缺點である。

粉餌は各種の飼料を粉砕混合して與へる爲自由に栄養分を調節する事が出来又不斷給與とするから努力も非常に節約されるが容器を餘程考へないと飼料が飛撒し易い爲に不經濟となるから注意が必要である。

練餌は鶏の嗜好に適應せぬ様な飼料又は栄養價の低いものでも他のものに混ぜて嗜好に適する様に調理する事が出来飼料費も割安につくれ共非常に努力を要するのが缺點である。

一般には之等の粒餌、粉餌、練餌等を適當に混ぜて利用されてゐる。

(ロ) 飼料給與方法

飼料の給與方法としては不斷給與、回数給與の二方法がある。

鶏が飼料を消化するに要する時間は割合に速くて中體、産卵中の鶏は約三時間、休産中の鶏は約八時間、就巢中のものは一四時間位で消化器を通過するものである。

だから回数給與の時は一回の給與量を減じて可成多くの回数に給與する方が成績は擧るのであるけれ共普通成鶏には一日二―三回、幼雛時は一日六―七回として漸次回数を減らし三―四ヶ月位で成鶏同様の取扱をする様にするのである。

成鶏の場合冬期晝間の短かい時は、朝は温い練餌を可成早目に與へ、夜間は非常に長くて空腹を訴へ勝であるから相當カサのある而も消化に時間の掛る粒餌等を與へる。

夏は反對に早朝の涼しい中に穀類の様な濃厚飼料を與へ、晝間、夜間には可成消化の良い餌を與へる様に心掛けなくてはならぬ。

粉餌は不斷給與とするから調理方法の如何、給與器具の如何に依つて飼料經濟又は能力の發揮に影響するから注意しなくてはならぬ。

練餌は鶏の健康及卵肉の品質にも關係があるから出来るだけ多く與へなくてはならぬ。處が給與方法が悪いと徒らに踏み付けて利用しないから綠茶は根付の儘八分目位の金網に入れて吊つておくのが一番効果的である。練餌に混ぜて與へる時は五分位に刻んで飼料の三分の一量位を混ぜて與へるとよい。

練餌は給與中の雛に夕方遅くなつて與へると素糞中で醱酵することがあるから注意せねばならぬ。貝殼、石片、木炭末等は適宜容器に入れて自由に攝取さす。

(ハ) 飼料の給與量

飼料の給與量は鶏の年齢、種類、飼養の目的、飼料の種類、調理方法及鶏の能力に依つて異なるもので適量の飼料を與へるか否かは直接能力の發揮には勿論飼料經濟にも關係を持つてゐるのである。粉餌の様な不斷給與のものでは慾する儘に喰べるから特に考へる必要はないが回数給與の時には一番困難な問題となるのである。

各方面で研究された結果を見ると、

●米國……スピットマン氏
單冠白色レグホーン種……生體維持に必要な一ケ年の分量 二、八一五匁

●米國……某試驗場

一ケ年一五〇卵を産む單冠白色レグホーン種……一ケ年必要量 八、四〇〇—一〇、二〇〇匁
兼用種……同 九、六〇〇—一、四〇〇匁

然しながら各種の狀況に依つて其の分量には相當の開きがあつて、同一の鶏に付て見ても多産期と休産期とでは約六七割の差がある。
一般的に考へて見て成鶏一羽一日量の攝取量は二五—三〇匁、舂目にして一・二—二・〇合位が普通である。

●四季別飼料攝取量割合及卵一箇生産に要する飼料量比較表 (岡崎種鶏場)

春	粉餌	練餌	粒餌	貝殻	卵一箇生産に要する飼料量
	三〇・六%	三〇・九%	五〇・七%	四・四%	一八八・二匁

夏	秋	冬	平均
一七・四匁	一九・九匁	一八・九匁	一九・四匁
二六・五八	三〇・八五	二六・〇六	二四・二
六三・四二	四六・〇七	四九・六九	五三・三
三・五匁	三・二	三・三	三・三
三二九・七九	三四二・七五	三六七・七九	三四四・八三

一、單冠白色レグホーン種、單冠ロードアイランドレッド種、名古屋種及三河種の四種類につき調査す。
一、給餌方法は粉餌を不斷給與とし、練餌は晝、粒餌は夕に各一回給與し、之等回数給與のものは充分攝取し得る様にし、攝取後殘餌を給與量より差引き實際量を計算す。

一、練餌は乾燥飼料として計算す。
回数給與の場合の分量は朝餌三・五割、晝餌二・〇割、夕餌四・五割が普通であるけれども、鶏の状態、氣候により手加減を加へなくてはならぬ。

回数給與の場合の適量としては給餌後三〇分位で僅に残る程度が理想的とされてゐる。特に回数給與の時は各鶏が過不足なく攝取出來る様に心掛けなくてはならぬ。

鶏が遠方から輸送されて來た場合又は空腹時に一時に多量の飼料を給與すると食滯を起し又は不消化等で下痢を起す等健康上障害を及ぼすから最初の給與量は幾分控へ目にしなくてはならない。

要するに給與量の決定は鶏を主體として考へるべきで、徒らに飼料の品質又は分量等で制限すべきものではないのである。

2 管理の心得

111

鶏を健康に保つて天賦の能力を充分發揮さすには、適當な飼料を給與するは勿論であるが、同時に管理を充分にせぬと駄目である。譬へ他の條件が完全であつても管理に缺點があれば飼養の目的は到底達し得ないのである。

養鶏成功者は！産卵数と鶏舎へ通つた管理の足跡の數とは正比例する又鶏と人の親和如何にあると述懐してゐる

一、一般管理

鶏と接する機會を出来るだけ多くして毎朝早朝に鶏舎を見廻り、鶏體の觀察を充分にせねばならぬ。

元來外觀上一見して病氣だな？と見受けられる時には既に相當病勢が進行してゐる時で、治療にも手数が掛るし、假りに快癒しても元々通りの活躍は期待し得ない許りでなく、萬一傳染病でもあれば取返しつかぬ事となるのである。

鶏の健康と鶏糞の状態とは相當關係があるものであるから、鶏體に就ての觀察をすると同時に鶏糞の状態も詳細に調べなくてはならない。

◎外觀による健康診断（病鶏の一般症狀を示す）

元氣なく一隅に佇立する

羽毛逆立ち光澤なく緊りがない

肉冠褪色又は變色し或は萎縮する

食欲減退

糞の色及形に變狀がある

鼻孔、肛門、眼等に病的滲出物がある

皮膚粗剛又は腫物が出来る

急に減産又は休産する

夕方早く棲木に上り、朝は遅くまで残る

發熱して脈搏が多い

結膜部潮紅又は蒼白となる

◎糞色による健康診断

健康糞 黒色にして、良く緊り一部に白色物を附着す。此の白色物は尿であつて此の色に變化のある時は内臓に故障のある證據である。

褐色の粘糞 直腸から排泄される。盲腸から絞り出された炭水化物の變形物である。

鉛様血色便 悪性の下痢症に侵された時に排泄する。

肉塊血色便 寄生虫、コクシジウムに侵された時排泄す、幼雛、中雛時代に罹り易し。

離の血色便 コクシジウム症と間違ひ易いが夜間離が重なり合つて丞された時排泄する。

黄白色粘便 幼雛の下痢を起す時に排泄する。又は白痢症の場合にも排泄する。此の兩者は克く混同され易いが後者は餌付頃から嚴密に云ふと孵化する時既に發生し次第に傳染する。前者は下痢の原因を除けば快復するものである。

黄白水瀉便 腸加答兒の發生に依る。惡臭ある黄白の水様便を排泄する。

綠色便 白血病（肝臟病）に罹つた場合、又は他の病氣でも頻死の状態にまで切迫した場合排泄する。綠色便を排泄

する時は特に注意が肝要である。

二四

(イ) 時期に依る管理

春！・氣候温暖、鶏も一番元氣な時で最も多産の時期である、飼料配合に注意して營養的に不足せぬ様に注意しなくてはならぬ。

梅雨期！・非常に濕氣が多い頃であるが鶏は又此の濕氣を非常に嫌ふのである。依つて出来るだけ乾燥を圖る事に努める。

多産後の産み疲れも加はり頗る衰弱するし、飼料の攝取量も減るから營養に注意せねばならぬ。此の頃には實際の産卵より一―二割多産のものに適する様な餌を與へなくてはならぬ。

其の他唐辛、胡椒等の強壯劑を與へる事も必要である。

夏！・は又暑さが加はるが、元來鶏は汗腺がないから一入暑さがこたへるのである。鶏舎は出来るだけ通風を謀り、日蔭樹を植え、又冷い清水を再採取換へて與へる様にす。飼料も攝取量が減るから營養的に不足せぬ様に配合率を考へなければならぬ。

秋！・換羽時期でもあり、食慾減退、鶏は衰弱勝で、産卵も減する。換羽の爲多くの蛋白質を要求するから實際産卵率よりも一―二割餘分に適する様な飼料を與へること。

卵價も此の頃は毎年高い時であるから出来るだけ早く換羽を了り産卵する様に努めなくてはならぬ。此の時期の産卵促進方法として點燈をすることもある。

冬！・寒い時であるから保温に注意しなくてはならぬが餘り保温にのみ重きをおいて換氣を忘れると却つて健康を害す

る故兩者を適當に行はなくてはならぬ。

鶏は寒さには強いものであるが賊風には非常に弱いから絶対に賊風(スキマカゼ)を避ける様に心掛けること。霜柱、雪等は好んで喰べるが下痢のもとになるから注意が肝要である。

(ロ) 鶏舎の消毒及敷薬の處分

鶏の病氣は治療より豫防に重點をおかなければ成功するものでない。

依つて少くも年二回(春、秋)位は大消毒を實行しなくてはならない。

消毒薬としてはクレゾール、クレオリン等の三〇―五〇倍の熱湯溶液又はクライトの五〇―八〇倍位のものを使用する。コクシヂウム豫防の爲の消毒法としてはクライト一〇〇倍溶液に醋酸水三―五%を混じ攪拌して手早く鶏舎床、運動場に充分撒布する。

運動場は軽く(一―二寸位)打ち起す方が一層効力がある。

敷薬は重要な肥料でもあるし、鶏舎を清潔に保つ爲にも再採取り出して堆積し、梅雨期は一層其の回数を増して部屋の乾燥を圖らなくてはならぬ。

鶏糞も毎日々々掻き集めて乾燥し極力肥料の採集に努めること。

(ハ) 外寄生虫の驅除

羽虱及糞虫(ワクモ)等は繁殖力の旺盛なもので一度出ると中々驅除が困難であるから平素からの豫防が肝心である。

羽虱驅除には除虫菊を塗布し或は棗り木の裏に硫酸ニコチンを塗布する糞虫は書間は壁、柱等の隙間に隠れてゐるものであるから消毒薬を充分隠れ場所に滲み込む様に心掛けねばならない。此の場合二―三回連続的に行はなければ効果は少

二五

ないものである。

二、淘汰と更新

鶏の能力は各個體に依つて随分異なるもので、同一の父母から出来た鶏でも優劣が出来るものであるから常に各個體別の観察を充分にして寡産鶏を淘汰しなければならぬ。

多産鶏の鑑別

實際の産卵調査に依る方法

トラツブネストを使用するのであつて最も完全に能力の判定が出来るけれ共一般農家には實施が困難であるから專業家、種鶏家等に望むべき事柄である。

外部的特徴に依る方法

◎骨格に依るもの

- 1、龍骨が長くて下方に開くもの
- 2、胸部の容積が大で、龍骨、恥骨間の巾の廣いもの
- 3、恥骨端が薄く且其の間隔の廣いもの

◎體色素の變化狀況に依るもの

- 1、肛門の周圍
- 2、眼瞼及耳朶
- 3、嘴（基部から先端に、下方から上方に）

4、脚（前方より後側、最後に横側）
右の部分の色素の褪速度の速きもの程多産と云はれてゐる。之等の褪色は肛門、眼瞼、耳朶、嘴、脚の順序で行はれるのが普通である。

◎換羽に依るもの

- 1、早期換羽のものは、換羽休産期長く寡産のものが多。
- 2、主翼羽の換羽少きもの程多産である
- 3、多産鶏は極めて徐々に換羽を行ひ何時終つたか判らぬ位である、勿論換羽中と雖も産卵を続けてゐる。

◎其の他の鑑別方法

多産鶏	寡産鶏
大きくふつくりして伸び滑かで光澤のある鮮紅色	小さく縮み白粉が多く色艶が悪い
白い	黄色
生々して輝き稍盛上つて眼瞼が白い	鈍くて平たく眼瞼が黄色
短大で強く白い	貧弱で細長く黄色
大きく卵圓形で濕めり柔軟で白い	小さく圓形乾いて堅く黄色
弾力性に富みて強靱で薄くしなやかで恥骨間隔が廣い	弾力性弱く厚くて粗い恥骨間隔が狭い
強く長く充分に發達して恥骨胸骨間の間隔が廣い	弱く短かく恥骨、胸骨の間隔が狭い
乾いてよく緊つて白い	圓く太つて黄色
脚	脚
胸骨	胸骨
恥骨	恥骨
肛門	肛門
嘴	嘴
眼	眼
耳朶	耳朶
肉冠	肉冠
比較項目	比較項目

旺盛	食慾 貧弱
産卵時刻は略一定し、お産は軽い	産卵 時刻區々でお産は重い
早く起き晩く寝る	就眠起床 晩く起き早く寝る

右の各項を参考にして多産、寡産を區別して、寡産のものは淘汰をするのである。斯の様に自然飼養羽数が減少するから新らしいものを補充しなければならない。

尙次の表でも判る様に年をとるに従つて能力は減退し、卵重に就ては初年度は軽く、二年度は重く、三年以降は異なるのであつて結局鶏を飼つて一番有利な期間は初産から二年目の所迄位であるから定期的な淘汰を行つて鶏の更新を圖らなくてはならない。

産卵年次	雌羽數	産卵數				第一年度ニ對スル%	卵ノ一箇平均重量				第一年度ニ對スル%
		最高	最低	平均	箇數		最高	最低	平均	瓦	
一年	一八三	二四四	八〇	一五〇	一〇〇%	六二・九	四四・八	五二・九	一〇〇・〇		
二年	一八三	二五二	五三	一六六	一〇〇%	六五・五	四三・五	五六・〇	一〇五・八		
三年	一七〇	二七〇	六二	一八九	九一・五	六五・五	四三・五	五六・〇	一〇五・八		
四年	一三三	二二五	五〇	一三九	七三・三	六二・三	四三・五	五三・三	一〇三・八		
五年	一三三	二二五	五〇	一三九	七三・三	六二・三	四三・五	五三・三	一〇三・八		
六年	一〇〇	一九三	七七	一〇八	五九・八	五七・九	四三・五	五三・三	一〇〇・九		
七年	八	九三	五五	七〇	四六・六	六〇・九	四三・五	五三・三	一〇〇・三		

三、換羽に就て

秋季鶏の舊ひ毛が抜けて新らしい羽毛に代ることを換羽と云ふのである。換羽の時は鶏が非常に弱り産卵も中止する始末で此換羽を上手に終らせるか否かは重大問題である。

此の頃の管理が悪いと快復が非常に長引いて産卵に影響する事が大である。換羽の早いものは六、七月頃から始めるが此の様なもの期間は長引き、從而休産も長くなるのであつて八月以前に換羽を始めるものは鶏自體が悪いか？管理が悪いかと云ふことになるのである。換羽を遅く始めるもの又は非常に徐々に換羽をするもの（勿論産卵を續けながら）程優秀な鶏でもあり又管理も充分に行届いてゐるのである。換羽に就ての試験を見ると次の通りである。

◎換羽状態と産卵（九月調査）

區別	羽數	換羽の爲休産せる日數	之等の鶏の年平均産卵數	同上指數
未だ換羽せぬもの	一六	三三	一七九・四	一〇〇・〇
換羽を始めてゐるもの	五一	四〇	一七三・一	九六・四
換羽が半以上終つてゐるもの	二二	五三	一六一・六	九〇・一
全く換羽を終つたもの	一四	六七	一四三・五	八〇・〇

即ち換羽の遅いもの程其の爲に休産する日數も少く從而多産性であると云ひ得る。鶏が生れて最初の換羽は孵化の時期管理の如何に依つて違ふれ共早春、冬期孵化のものは多くは早期に換羽を始め、

四月以降に孵化したものは其の年内に換羽することは稀である。

老鶏程換羽に依る休産日數も長し又脂肪鶏も長びくものである。

換羽中は特に飼養管理に充分な注意をすることが必要で換羽中の取扱ひとして行はれて居るものは

- 1、一日十羽當約一匁の食鹽を飼料中に混じて與へる
- 2、菜種油粕、向日葵の少量を飼料として給與する
- 3、綠餌、石屑、貝殻、木炭末を充分に與へる
- 4、各種の強壯劑を與へる
- 5、運動を促進さす

四、點燈飼育

秋冬の頃日照時間が少なくなると運動時間も短くなり従つて飼料攝取量も減ずる爲産卵も減るが之を補ふ爲に點燈して運動並飼料の攝取量を促進して産卵増加を圖るのが點燈の目的である。

○畜産試験場に於ける試験

年 度	試 験 期 間	區 別	羽 數	産 卵 數	産 卵 歩 合	試験期間に於ける點燈に依る一羽當増益
大正十二年	自一〇月二一日	點 燈	二四	一、六八八箇	四・五%	一・六三
	至三月四日	對 照	二四	一、一〇九	二・九%	
同 十三年	自一〇日二〇日	點 燈	一六	一、一〇六	四・二%	一・二二
	至三月三一日	對 照	一六	八〇五	三・一%	

年 度	試 験 期 間	區 別	羽 數	産 卵 數	産 卵 歩 合	試験期間に於ける點燈に依る一羽當増益
同 十四年	自一〇月二一日	點 燈	二四	一、二六五	三・三%	一・四〇
	至三月二〇日	對 照	二四	七三八	一・九%	
同 十五年	自一〇月一一日	點 燈	一四	八五二	三・八%	二・一六
	至二月二八日	對 照	一四	三三九	一・五%	

(備考) 一、毎朝午前四時—四時三〇分から夜明まで一區約四坪の室に一〇〇燭光電燈一箇を床上五尺の位置に點す
 一、生産卵價格は毎試験期に於ける東京市場鶏卵相場より算出

(イ) 點燈の方法

點燈の方法は四通位あるが最も成績の良いのは日の出前の點燈である。克く見受ける終夜點燈は一時的には良いけれども極度に疲勞さすから病廢鶏を出し易い。依つて淘汰直前のもので以外には行はぬ方がよい。

(ロ) 點燈時間

鶏の年令に依つて違ふ。若鶏は短かく、老鶏には長くするがよい。普通若鶏には活動時間が二—三時間位になる様にし、二才以上の鶏には一四—一五時間位が目標とせられてゐる。

(ハ) 點燈開始及消燈方法

急に點燈すると種々の故障を起し易いから七—一〇日位掛つて徐々に始め、中止する時も同様の手心で行はねばならぬ

(ニ) 照明の程度

鶏が床上の餌を見得る程度が良い。燭光の明るさ及其の燈數は鶏舎の大きさと其の他の事情で異なるが、割合小さいものを數多くつける方が効果があるものである。

(木) 點燈光の位置

燈光は床上五―六尺位の所におき、室の中央部において棲木、餌箱が明るく見える様にせねば効果がない。

(ハ) 點燈と換羽

密接な關係があり點燈開始が換羽前であれば、換羽を中止して産卵を続ける。たとへ換羽を始めても徐々に換羽をしなから産み続けるものが多い。

春季廢燈後急に換羽をするから消燈する時は一段と注意して徐々に徐々に行ふ様にしなければならぬ。

(ト) 點燈の効力

點燈開始後普通二―三週間目から効果が顯はれ次第に其の程度を増して三ヶ月頃が最盛期となる。此の頃は無點燈區に比して約倍位の産卵率を示すが普通で其の後は次第に無燈區と差が少くなり二月下旬頃は殆んど同様、三月以後は却つて率が低下することがある。

3 設備

鶏が如何に立派なものでも設備が不完全であれば何の役にも立たぬ。

克く理想的な鶏舎の眞の意味をはき違えてゐる人がある即ち金さへかければ理想的であると考へる人があるが之れは根本的に誤つてゐる。所謂竹の柱に萱の屋根であつても急所が備つて居れば理想的鶏舎たり得るのである。

以下餘分の理窟は抜きにして要點だけを抜記することにする。

一、鶏舎の敷地

濕氣を非常に嫌ふ故能ふ限り乾燥地帯を選ぶこと。

比較的砂質で乾燥し易く且軟らかな所が良い。

鶏舎の向は東南に向け、日當りの良い場所を選ぶこと。

二、鶏舎の設備上注意すべき事柄

保健衛生上常に清潔に保ち得る様に工夫すること。

出来るだけ簡単な構造として掃除、作業に便利な様に工夫すること。

鶏舎正面の窓は出来るだけ大きくし、日光を充分に導くこと。

空氣の流通を図ること。

背面の窓の構造、位置は充分考へて作ること。

冬季の賊風(スキマカゼ)は最も危険であることに注意すること。

濕氣を避ける爲出来れば周囲の土地より少く共四―五寸高めにすること。
鶏は寒さより暑さに弱いから夏向、開放的な鶏舎とすること。
野犬、猫、鼯、鼠、蛇等の外敵に備へること。

三、鶏 舎

建築材料は種々あるが木造が一番手取り早い。
普通の採卵養鶏では一部屋の大きさを可成大きくすること。
軽種(白レグ)なら一坪當一〇―一五羽、重種(兼用種)ならば一坪當七―八羽位を目安とする。
鶏舎の高さは作業に便利な高さとする。正面軒高六―七尺が普通である。
屋根には萱葺、瓦、トタン、スレート、便利瓦等があるが地方で得安いものを用ひること。
屋根の材料に依り其の缺點を補ふ様な方法を考へること。

萱、藁は冬暖に、夏涼しくてよいが寄生虫の隠れ場所となり易い。(此の時は可成厚く葺くこと)
トタンは夏のテリ返しが強いかから下に葦を一、二枚敷くこと。

鶏舎の前背面又は兩側面の下部に一―一・五尺位の風抜窓を作ること。
鶏舎床は周囲より四―五寸位高くして乾燥を圖る。
床はコンクリート、三和土、砂、板張り等色々ある。

四、運動場

廣さは一坪に四羽位の割合で作るのが普通である。(鶏舎の二―三倍位)
運動場は奥行を深くするよりも間口を廣くする方が効果的である。

運動場は必ず排水の良い、乾燥地を選ぶこと。

年數回打起して消毒し、年一回位表土の取換へをすれば理想的である。

砂浴場を作ること(三―四尺平方位の木枠を用ふ)

夏季直射日光の強い時には日蔭樹を作ること。

日蔭樹としてはポプラ、イチヂク、梨、葡萄等が利用される。

金網は五分目、上方は二寸目位のものを使用する。

宅地附近の桑園、果樹園を利用するのも得策である。

五、舎内設備

棲木 棲木の幅は二―二・五寸位で上縁はカマボコ型に圓味をつけること。

一羽に對する長さは七―八寸の割でよい。

壁と棲木との間隔は少く共一尺五寸位とし棲木と棲木とは少くとも七―八寸位間を置くこと。

棲木三、四本を併列して使用するときは多少の傾斜をつけるとよい。

棲木の高さは卵用種で床から三尺、兼用種で二尺位と謂はれてゐる。

棲木を鶏舎の中央におく場合もある(大群のとき)

棲木の下五―六寸位の處におく。

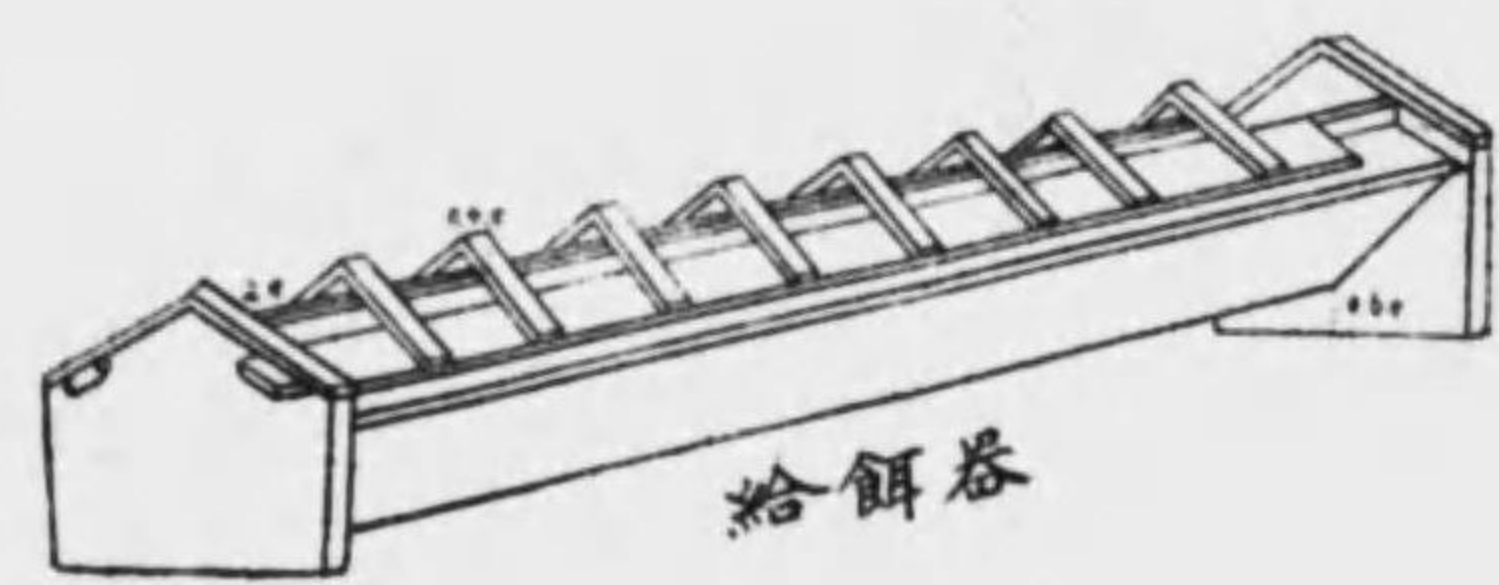
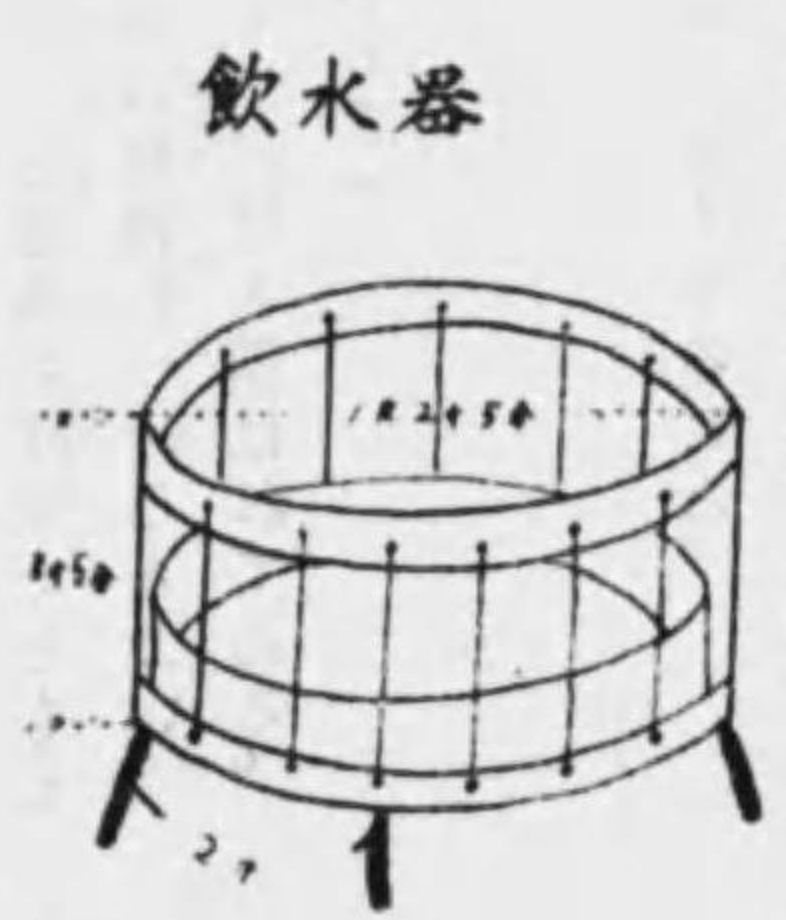
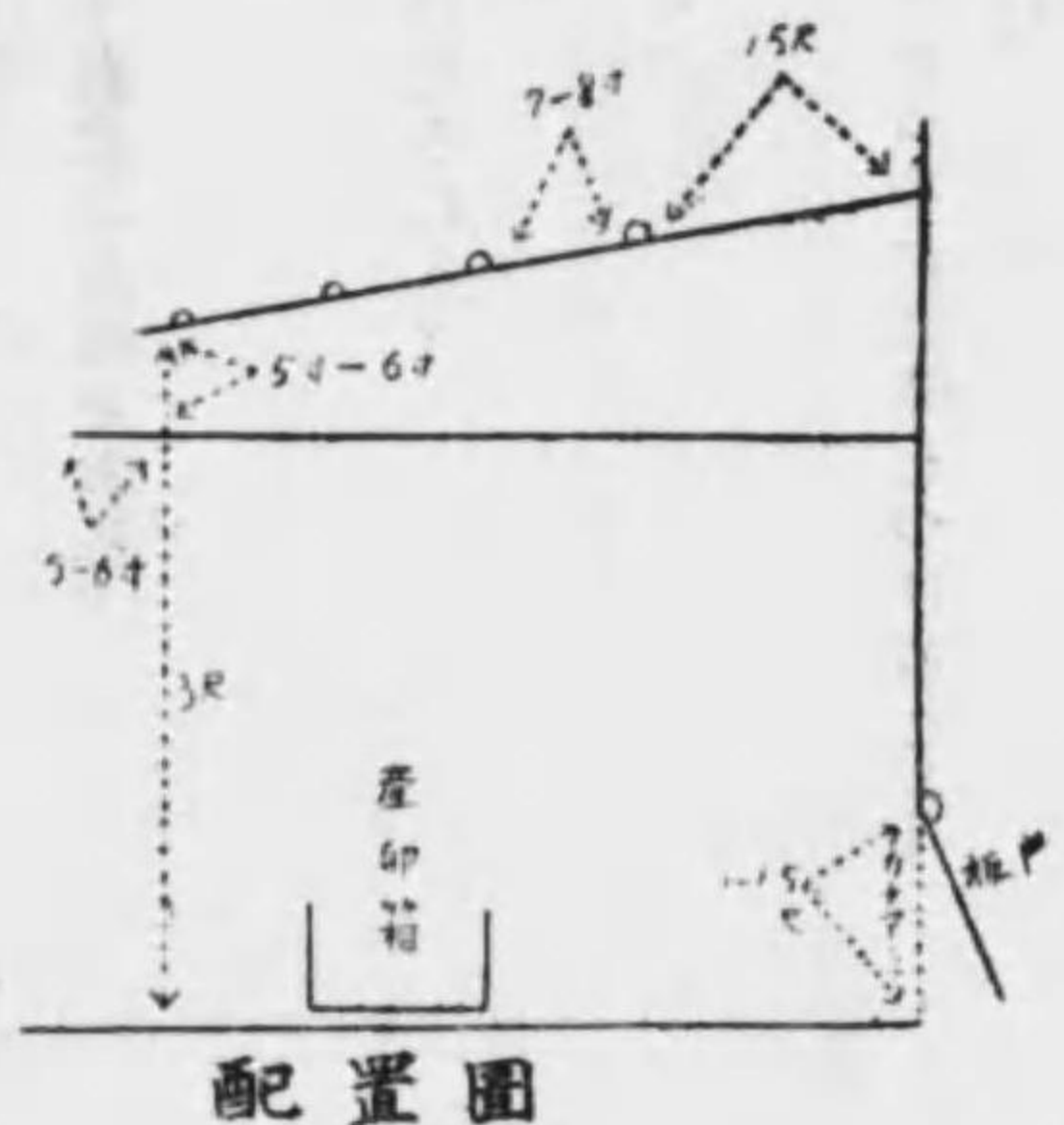
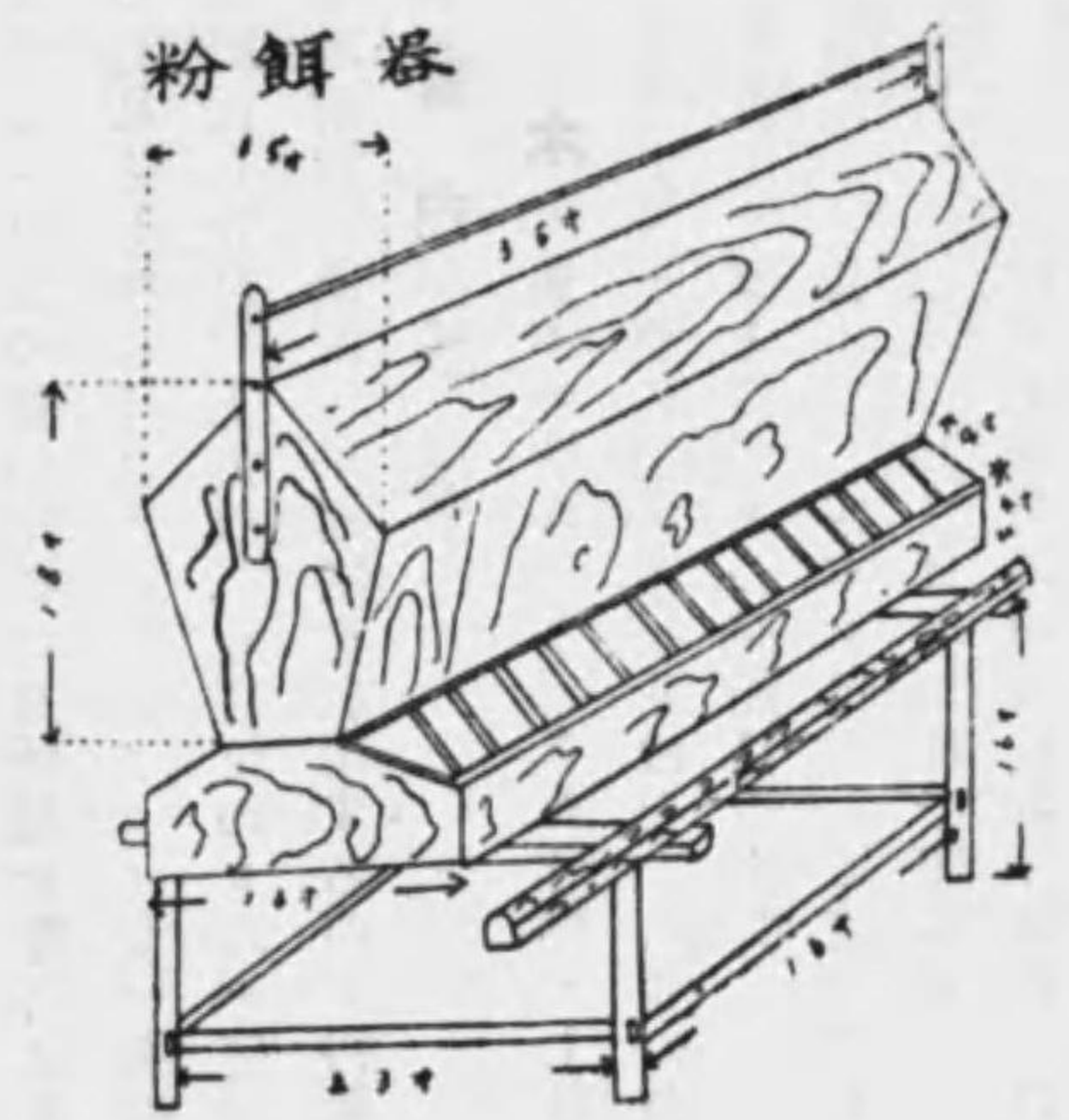
取外し出来る様にして時々消毒すること。

糞受臺の幅は最前の棲木より少くとも五―六寸廣くすること。

糞受臺の下又は壁際に設ける、幾分暗い場所を好むものである。

四羽に對し一位の割合でよい。

時々掃除して清潔にすること。
給餌器、給水器 種々の型のものがあるが代表的なもの二、三を圖示することとする。



三大

4 疾病

鶏は一旦病氣に罹ると治療に頗る勞力と經費を要する許りでなく快復しても元々通りの活躍を期待することは不可能である。

鶏の場合には治療よりも豫防に重點をおかなくては到底成功は望み得ぬのである。以下項を追つて各種疾病につき略記することとする。

感冒鼻加答兒

- 感冒又は部屋の蒸す時發生し易い。
呼吸の時嘎聲を出し鼻汁を出す。
眼瞼腫れ、食慾減退、舉動不活潑となる。
- ▲ 原因を除去する
病鶏は溫暖乾燥せる部屋に入れ、消化よき飼料を與へる。
飲水に蕃椒丁幾又は一五〇〇—二〇〇〇倍の過マンガン酸加里を與へる。
鼻加答兒を起したものは二%硼酸水で洗滌する。

ルーブ

- 感冒又は部屋の蒸れる時發生す
前者と酷似し惡臭ある粘稠鼻汁で鼻孔が閉がれ呼吸困難となる。

三七

病状進むに伴ひ顔面蒼白且腫脹す

▲感冒の手當に準ず

滲出物を拭ひ二%硼酸水で洗滌する。

チフテリ

●初期は前二者に似る。後ち粘膜面に白―黄色義膜を生ず。悪臭あり。

▲前二者の手當に準ずる。義膜を取り三%硝酸銀液で焼き二%食鹽水で洗滌す。

病氣の抗進せるもの、肛門チフ等には食鹽水の代りに一%クレゾール石鹼液を使用する。

豫防液、血清等の注射が有効である。

豫防液注射液(一―二回實施)

雛(一三〇匁位以下ノモノ) 〇・五―一・〇cc

一壘五〇cc入―〇圓九五

鶏(二三二匁位以上ノモノ) 二―三cc

發賣元 東京市瀧ノ川區西ヶ原獸疫調査所

氣管加答兒

●開口して呼吸し、咽頭喘鳴す。咳嗽をする。

▲單寧酸五〇倍液で咽頭を洗滌する。

氣管内にアンモニア又はチギタリス丁幾一―二滴をたらす。

鶏痘

●イモ、カボトソー等と呼ばれる。

蚊によつて媒介される。

▲蚊軍の襲來に備へること。

水胞、痂皮を取り三―四倍の過クロール鐵液を塗る。

鶏痘豫防の實施

鶏群中に一、二羽でも鶏痘に罹つたものがあつてはよくない。完全に免疫性が得られるまでには善感後一ヶ月位かゝ

るものである。依つて毎年鶏痘の發生する頃より少くとも一ヶ月位以前に實施すること。

痘苗接種面(股の外側)を二錢銅貨大に毛拔し(血の出ぬ様に)痘苗際入器で靜かに際り込む。

痘苗接種部は消毒せぬこと。

痘苗、際入量(成鶏) 一―一羽 一〇・一cc

(雛) 五十日 一―一羽 一〇・一cc

痘苗一〇cc入(成鶏五〇羽分) 二五錢 發賣 獸疫調査所

コクシチウム

●孵化後二―三週間位でよく發生する。

黄白―白色粘稠軟便を出し漸次血便を排泄す。

食慾不振、惰眠し、冠、顔面著しく褪色して翼を垂れ羽毛逆立ち衰弱斃死す。

▲有効なる治療方法なし

消毒薬として効果あるはクライト一〇〇倍溶液に醋酸三―五%を混じ手早く攪拌の上充分に撒布す。

白痢

- 幼雛に發生する次第に衰弱、白い便を排し、傳染して次々と斃死する。
本病は頑強な傳染環に依るものであるから保菌鶏の淘汰をする必要がある。
單に白便するからと云つて白痢であること云ふ事は出来ぬから此の點注意が必要である。
- ▲ 完全な治療方法はない。病雛と健康雛とを分離して大消毒をすること。
健康雛には乳酸醱酵した牛乳を與へて出来るだけ丈夫に育ててはならぬ。

下痢

- 飼料、飲水の腐敗又は粗悪品或は飼料の激變等に依つても起るし、急激な冷温等に依つても起る。
悪臭ある軟便、水様便を排泄する。
- ▲ 原因を除く

温暖乾燥せる部屋に移し、飼料にも注意する。
コログイン四―五滴を盃一杯位に薄め一日二回位給與する。
毒物攝取に依る下痢にはヒマシ油、瀉利鹽等の下劑を給與する。

卵泌症

- 産卵初期、二黄卵を産むもの、脂肪過多鶏、輸卵管炎、肛門チフ等に依り發生す。
運動不活潑、臀部を垂れ、卵を産まうと苦悶し徒らに努責する。
- ▲ 羽毛の尖端にグリセリンを塗り肛門内に入れる。指にグリセリンを塗りて取出す。
又は破卵して出したる後二%クレゾール石鹼液で洗滌する。

輸卵管炎

- 多産鶏に出る卵道の刺戟が過大なる爲に起る。産み疲れ鶏に多い。
此の外卵破裂、卵停滯、異常卵形成、卵巢炎症等に原因す。
輕少のものは外觀に異常なく唯産卵の時の状態等で診斷する。
- ▲ 温暖安靜なる室に移す
- 粒餌を廢して粉、練餌を與へる。
練餌を多給する。

趾瘤病

- 趾に傷を受け之から病毒が入る爲に起る。
初期は赤く腫れ後化膿してクリーム状のものが溜り表面に黒色圓形のものが出来疼痛の爲跛行する。
- ▲ 患部の赤い頃は一日二―三回位石油につけるか沃度丁機を注入する。
化膿したものは充分化膿して、内部に硬いものが出来てから切開、異物を出し三%クレゾール又は〇・一トリパフラ
ビン液で洗滌し創面にヨードフォルム二、硼酸末二、木炭末一の割合の撒劑をつけて纏帯する。

條虫、蛔虫

- 病鶏は舉動不活潑、羽毛粗剛、多數寄生すると貧血斃死する。
- ▲ 蛔虫の場合
1、一〇羽一週間分の飼料に左記の割合で煙草粉末を混じて一週間給與した後瀉利鹽を與へて下劑をかける。

日数	煙草粉	瀉利糖	日数	煙草粉	瀉利糖
三十日	三匁	三匁	八十日	六匁七匁	五匁
四十日	三・五匁	三匁	百日	八匁九匁	五匁
五十日	四匁	四匁	若鶏	一四匁一六匁	六匁
六十日	五・六匁	四匁	成鶏	一八匁二〇匁	七匁

2、硫酸ニコチン應用

六十日雛：…一、二〇〇倍に薄め二日間飲水として使用

成鶏：…一、〇〇〇倍に薄め二日間飲水として使用

▲條虫の場合

病鶏隔離、數時間絶食後カマラ〇・二一〇・五瓦を給與

白癬症

●植物性の一種のカビの寄生に依る

冠、肉髯等無毛部に白色斑點が出来る。

▲刷子に加里石鹼をつけ白斑のなくなるまでこすり。脱脂綿できれいに拭取り別にサリチル酸五、亞鉛華一〇、醋酸鉛五、單軟膏三〇の軟膏を作り患部に薄くぬる。

疥癬症

●疥癬虫の寄生にする、脚趾に白色の痂皮を生じこれが癬狀に隆起して粗剛となり脚鱗は弛んで容易に剝離する。

▲患部を微温湯で充分軟化、洗滌し消毒軟膏を塗る。

羽虱

水銀軟膏を塗つて纏帯するか又はベールバルサム一・〇、アルコール二・〇の溶液を作り隔日に患部に塗布す。

▲夕刻棲木にブラツクリーフ二倍溶液を塗る。之を數回繰返す。

砂浴場を清潔にし砂中に硫黄華、除虫菊を入れる。

今津ハイトリ粉五、除虫菊三、硫黄華二の割合に混ぜたものを鶏體に塗布する。

糞虫(ワクモ)

●晝間は壁間、木の隙間に入るが夜間出て血液を吸ふものである。

▲石油の噴霧、又はクレゾール、クレオリンの三〇—五〇倍熱湯溶液の噴霧か或は石油のナフタリン飽和溶液に其の三分の一量のクレゾール石鹼液を混じ別に少量の蕃椒、クロールナトリウムを加へて加熱攪拌して赤褐色の原液を作り此の三%液で再噴霧消毒する。

鶏コレラ

最も恐るべき傳染病で原因は「鶏コレラ菌」により起る、この病菌は臟器は勿論糞中にも存在し土壤中にても約三ヶ月は生存し飼料及飲水と共に鶏體に入り傳染する。

症狀は急性と慢性とあり其の症狀も幾分相異なる、突發の初期は病勢猛烈で病症を發見せざる内に數時間で斃死するものが多い。

急性の症狀は食慾の皆無、元氣乏しく冠、肉髯等は紫色又は褪色し鼻腔、口腔には粘液を認め呼吸困難斃死す、経過の稍々永きものは便は初め灰白色の粥狀、續て黄綠色の粘液を混じたる軟便或は綠色の水様便となる、食慾減退、元氣衰へ

盛に水を飲む、発病後四、五日にして嗜眠状態に陥り斃死す。
 更に長き経過のものは稍々食慾及元氣の衰へを見るのみで大なる變化はないが一定の時期を経ると嗜眠状態に陥り時々發作的に興奮し終に斃死する。長き経過をとるものは病毒の常在鶏舎に發生するものが割合に多い。
 本病診断の最も確實なるは細菌検査の外はない。病鶏は病毒を散毒せしめぬ様にして獸疫調査所、府縣廳其他細菌學的検査を行ひ得るところに送り診断を乞ふことが必要である。
 發病せるものは治療の効なく常に豫防に心懸けねばならぬ。一度發病せるときは健康鶏に對し一時も早く「鶏コレラ血清」を注射して他に發病することを豫防せねばならぬ。血清の有効期間は約三週間位であれば注意が必要である。
 附近に本病の發生せるものあるときは前以て健康なるものに「鶏コレラ豫防液」を注射するときは其の効力は四ヶ月——六ヶ月にして手數と費用を節して完全な豫防が出来る。

鶏チアス

病源は鶏チアス菌によるもので其の症狀は時として鶏コレラの慢性のものに酷似して居る、鶏コレラの如く軟便及下痢便を排泄して病菌を散布するのである、診断は細菌學的の調査でなくては確實でない、雖に發病すること少なく多くは成鶏が罹病する、豫防は鶏コレラの場合と同様な注意が必要である。

鶏ペスト

臨床的によく鶏コレラと誤診され易い疾病である、病毒は鼻漏、涙、糞、血液、神経系統の組織中及膽汁中に存するもので肝臓及脾臓中にも見受けられる。本病は是等排泄物及滲出物等が皮膚の缺損部等より體內に浸入するものである。
 發病せるものは動作不活發食慾減じ終に興奮又は嗜眠状態となり、肉冠肉髯等は暗赤色又は黒赤色となり眼瞼を閉して涙を流し眼の粘膜炎は腫脹する、口腔及咽喉に灰色又は帶赤色の粘液がある、而して口粘膜炎には所々に小さき出血點を認

め稀れに下痢するものもあるが色は灰色又は緑色にして時として赤色のこもとある。
 まだ的確な治療法がない、發病せるものは斷然たる處置を爲し他の鶏群への蔓延を防がねばならぬ。
 鶏舎其他はクレゾール製劑により充分消毒せねばならぬ。本病の潜伏期は多くは三―五日で例外として二日又長きものにて七日を要するのがある。

附 錄

一、養鶏飼料の組成分及可消化養分表%

種 類	成 分				可 消 化				
	水 分	粗蛋白質	無窒素浸出物	粗脂肪	灰 分	粗纖維	粗蛋白質	無窒素浸出物	粗脂肪
小 麥	12.5	14.0	66.0	1.8	1.8	2.2	11.0	66.7	7.0
細 身 小 麥	13.1	13.4	64.8	2.5	5.0	3.2	9.8	57.9	1.0
大 麥	9.6	10.1	68.3	2.2	2.5	6.3	7.5	57.0	1.0
立 米	13.9	9.8	68.2	2.8	2.5	2.7	7.7	60.9	1.0
小 米	13.1	9.5	70.6	2.3	2.5	2.8	7.5	63.8	1.0
批 米	13.7	7.1	58.2	2.3	6.6	2.4	6.5	55.0	1.0
粳 米	12.8	9.6	70.6	2.4	1.7	2.8	7.0	63.2	1.5
燕 麥	9.1	12.6	57.3	2.4	3.3	2.8	8.9	51.6	3.7
稗 麥	10.6	10.9	57.9	2.3	1.9	2.5	8.2	59.1	1.1
蕎 麥	12.1	10.8	62.3	2.5	2.1	1.5	5.4	51.4	1.5

374
144

昭和十二年七月五日印刷
昭和十二年七月十五日發行

長崎縣農產課內

發行所 長崎縣養鶏組合聯合會

印刷人 長崎市本博多町一
藤野光輔

印刷所 長崎市本博多町一
株式會社 重誠舍

電話 三八〇七番

終

